

こどもパーク(ゆめトピア長船周辺)整備基本構想
【概要版】

令和5年3月

瀬戸内市

1. ニーズ調査の方法

子どもからシニア層、ハンディキャップの有無等を問わず、幅広い層から多様な意見を収集するため、ワークショップやアンケート、イベントを実施した。下記に本業務のスケジュールを整理する。

既存ニーズ調査

「みんなでつくる瀬戸内市のこどもひろば基本構想(令和2年3月)P4に記載されている既存調査やパブリックコメントの内容を整理。」



構想案作成

こどもパーク整備基本構想策定

2. コンセプト・基本方針の整理

瀬戸内市が作成した方針を左に整理し、その内容を踏まえ右に「こどもパーク」のコンセプトを策定する。

瀬戸内市「みんなでつくるこどもひろば基本方針」

子どもの遊び環境に関する課題 (P8)

- ◆瀬戸内市の子どもの遊び場は、量、質とともに市民のニーズを満たしていない。
- ◆公園の老朽化した遊具の新設取り替えや破損の補修が求められている。
- ◆トイレがあっても汚く使いにくいなど、施設管理が不十分である。
- ◆1・2歳から外で遊ぶ割合が増え、幼児向けの遊具の設置を望む声が多い。
- ◆兄弟等、異年齢が楽しめる場所を望む声が多い。
- ◆天候にかかわらず、子連れで出かけやすい施設を望む声が多い。
- ◆公園や遊び場の情報が分かりにくい。

基本方針 (P18)

- **あんしん** …人がいるから安心する、楽しくなる
赤ちゃんからお年寄りまですべての市民が、外遊びを体験し、参加し、関わり、見守るまじの実現には、安心の存在となる人の存在が大切です。「こどもひろば」では、人がいるから安心する、楽しくなることを目指します。
- **あったか** …市民、市全体で子どもを見守る
「こどもひろば」の推進を通じて、市民、市全体で子どもの育ちを見守るあたたかな環境づくりに市民、地域と連携して取り組みます。本市が掲げる、安心して子どもを産み、育てることができる地域づくりとなります。
- **よくあそぶ** …もっと自由に遊べる場をつくらう
子どもにとって遊ぶことは、特別なものではなく毎日のこと。夢中で遊ぶ姿は、子どもたちの「生命力」=「生きる力」そのものです。子どもたちが自ら発見し、考えて工夫するなど、子ども自ら育つ力を伸ばす、遊び場をつくりましょう。
- **みんながつながる** …子どもを真ん中に全世代がつながる
全世代が経験する共通の体験である遊ぶことを通じた「こどもひろば」の取組は、子どもを中心に、全世代がつながるきっかけとなります。地域に多世代の交流が生まれ、地域コミュニティが活性化します。

ゆめトピア長船周辺整備に大切なコンセプト (P36-37)

- **全天候型の遊び場**「こどもパーク」として整備する
◆乳幼児から小学生まで幅広い年齢の子どもたちが、遊ぶことを楽しめる広場を目指します。
◆市民からの希望が多い、屋内で遊べる環境を設けます。
- **子ども向けの室内遊具の充実**
◆室内でも身体を動かして遊べる遊具を設置します。
- **まちなかで気軽に外遊びを楽しむことができる**
◆のびのびと身体を動かして遊べる芝生広場や水や砂や木など、自然の素材で遊べる広場を設けます。
- **そこに行けば、人がいつもいる**
◆子どもの遊びを、保護者だけでなく、みんなで見守ります。
◆訪れる子どもや大人の交流のきっかけをつくる場づくりを図ります。
- **大人がゆっくりできるスペース**
◆座ってお茶を飲んだり、お弁当を食べたりできるスペースを確保します。
◆子育てやまちの情報を見たり、読んだりできる工夫をします。
◆大人同士が情報交換したり、交流できる工夫をします。

こどもパーク (ゆめトピア長船周辺) コンセプト

環境づくりとともに「コミュニティビルド」でみんながつながる

「あんしん・あったか・よくあそぶ」環境づくり

多様な人々が関わり合いながら
市全体で子どもを見守り、育む
自由なあそび場・子育て支援拠点を目指します。

あんしん
あったか
よくあそぶ



▶「こどもパーク」と一緒に、「新たな地域の輪」も築いていく

こどもパーク (ゆめトピア長船周辺) 基本方針

1 子どもの能動的なあそびを支え、 こころ・頭・からだを育む環境

(1) 成長・発達段階に応じたあそび

- ◆子どもの年齢や発達・成長段階、特性ごとに合わせて多様な選択肢の中からあそびを選べる環境をつくる。
- ▶楽しみ方が変化していくため、継続的な利用に繋がる。

(2) 「ハンドメイド」な整備

- ◆全てを整備せず、子どもや市民が自由な発想で作り変えられる場所を残す。
- ▶市民の手によって変化し続けるあそび場

(3) 屋内・屋外どちらも利用可能

- ◆雨天や猛暑など、天候に左右されず、自由に遊べる環境を創出する。
- ▶あそびをより日常的に、気軽なものにしていく

2 「市民」の手づくり、つなげる 子どもたちのあそび環境

(1) 地域の資源・人材の活用

- ◆「こどもひろば」の活動を通じて構築された地域のネットワークを活かす。
- ◆あそびを通じて市民の活躍の場をつくる。

(2) 「第3の成長の場」を目指す

- ◆家族・学校の外で出会う地域の大人との関わりを創出
- ◆地域全体で子育てをする社会の実現

(3) 「オーナーシップ」を育む市民参画の機会

- ◆市と市民が中心となってあそび場の運営を継続していく仕組みとして、整備段階で関わる機会を設ける。
- 市民参画の機会を調整するコーディネーターを配置。

前提として…「インクルーシブ」な環境づくり

幅広い層の意見を取り入れる

- ◆環境整備の際に見落とされがちな子どもやハンディキャップを持つ人、関係者にも焦点を当て、放課後デイサービス等での意見交換を実施。地域に広く開かれた環境をつくる。

配慮のバランス

- ◆ハンディキャップを持つ人も含め、すべての利用者が自然と自分らしく楽しめる環境を目指し、特別視されるような偏った配慮にならないよう検討を進める。

誰もが関われる場所である

- ◆あそび場に加えて、DIY やスポーツ、体操、ワークショップなど多様なアクティビティが楽しめる場をつくる。世代を問わず一緒に遊ぶ、教える・教わるなど子どもを中心に、あそびをきっかけに、この場所ならではの出会い・体験を創出する場を目指す。

自分の責任で自由に遊ぶ

- ◆商業施設や一般の公園と違い、さまざまな活動・あそびが自由に展開できる場である。そのため利用者には、自発的なアクションや他者への配慮、安全管理などが求められる。



3. 整備の位置検討

こどもパークの設置位置は、ゆめトピア長船の駐車場エリアで確保可能な3箇所を設定。「アクセス性・安全性」「周辺施設との連携」「視認性」等の観点から比較検討した。

なお、面積は類似事例や敷地内で確保できる規模などを考慮し、2,700㎡に設定する。

	配置案 A	配置案 B	配置案 C
配置			
アクセス性 安全性	<ul style="list-style-type: none"> ・南側道路から最もアクセスしやすい。 ・駐車場と区分されているため、徒歩や自転車と車動線の交錯が少なく、アクセス時の安全性が高い。 ・南側道路からゆめトピア長船のエンタランスに通じる通路が遮断されることから、敷地西側に長船駅からアクセスする通路を確保する必要が生じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側道路からのアクセスは比較的近いが、駐車場内を横断通行する必要がある。 ・徒歩や自転車による利用は、駐車場を出入りする車動線と交錯するため、安全面の課題が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側道路からのアクセスは遠い。 ・徒歩や自転車による利用は、駐車場を出入りする車動線と複雑に交錯するため、安全面の課題が残る。
周辺施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめトピア長船のエンタランス前に位置しており、連携しやすい。 ・長船支所とも比較的近い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめトピア長船に隣接しているが、エンタランスへのアクセスはやや遠い。 ・公民館の附属施設に近く、連携しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆめトピア長船のエンタランスまで遠く、連携しにくい。 ・長船支所とも離れている。 ・一方、公民館の附属施設とは近く連携しやすい。
視認性	<ul style="list-style-type: none"> ・南側の道路に面してリニアな形状のため、周辺からの視認性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側の道路からやや離れており、形状も道路面が短辺となるため、周辺から視認しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・南側の道路から遠く、周辺から視認しにくい。

比較検討結果

こどもパークの設置箇所について、下記の項目に該当する場所が望ましい。

- ・歩行者と車動線の交錯が少なく、安全性が高い。
- ・ゆめトピア長船内の公民館機能と連携しやすい。
- ・周辺からの視認性が高い。

→ 上記に最も該当する **A** の配置案を基本に検討を進めることとする。

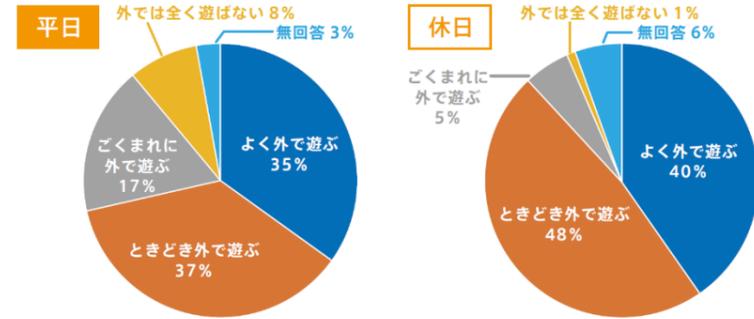
4. 市民ニーズを踏まえた必要機能の整理

市民ニーズ調査をもとに、こどもパークに求められる必要な機能や施設を整理する。

市民が求める、あそび・体験・施設

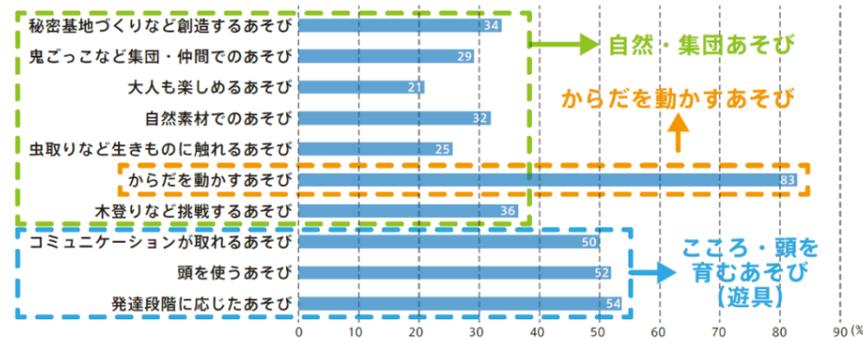
22.11 実施アンケート集計結果

◆平日・休日の外遊び頻度



→平日・休日いずれも半数を超える回答者が「外で遊ぶ」と回答。

◆あそびにおいて大切にすべき視点



あそび

からだを動かすあそび

特にニーズが高く、アンケート回答者の約8割が必要と答えている。

こころ・頭を育むあそび

自然・集団あそび

一定のニーズあり

異年齢と一緒に遊べる

兄弟で来ても利用できる

体験

大人が関わって楽しめるあそび

紙芝居や絵本の読み聞かせ、伝承あそびなど

音楽や工作

管理者がいることで実現できる体験

一般の公園で禁止されることが多いボールあそび、たき火など

アウトドア体験

たき火・プチキャンプなど

食育・収穫体験



運営・管理

スタッフが必要

あそびのサポート、安全管理、利用者同士をつなぐ役割として、人を配置する。

地域の企業や団体と連携

子どもに対する多様な体験の機会を創出するために、積極的な連携を図る。

市民が参画できる機会をつくる

あそびのサポート、見守りボランティア、自身の特技を活かしたプログラム提供

持続可能な施設運営のために

募金やスペース貸、イベント収益 (ex. フリーマーケット) などを実施し、運営費に充てる仕組みをつくる。

利用者の意見を反映させる仕組み

アイデア黒板、アンケート箱など

施設(ハード面)

屋内・屋外を揃えたあそび場

天候や季節を問わず遊べる場所

市民が日常的に利用できるあそび場

「特別な施設」である必要はない。
周辺から利用者が殺到し、利用しにくい状況は避けたい。

安全に利用するための対策

防犯対策や駐車場対策、アクセスなどの十分な検討が必要。

施設(ソフト面)

大人同士の交流

交流を通じた、悩みの相談・情報交換ができる場

飲食可能な場

持ち込みの食品を飲食できる場

すべての人に配慮されたサービス施設

子ども用のトイレ、誰でも入れる授乳室など、父子家庭・多子家庭の利用者にも対応

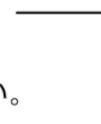
5. 各施設の規模の比較検討

前項で整理した「こどもパークに求められる各施設」について、ゆめトピア長船の建物内の活用も含め、規模・コスト等を比較検討した。

	A 案	B 案	C 案																														
各案の概要	<p>ゆめトピア長船内に屋内あそび場を設置する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ゆめトピア長船内で利用できるスペースは、約 135 m²程度。限られた面積や敷地の形状を踏まえると、屋内あそびのニーズが最も高い低年齢（主に未就学児）を対象としたあそび場を創出する。 ●ゆめトピア長船内を活用できる分、屋外あそび場遊具の充実化を図れる。 ●こどもパーク内にはイベントや休憩、からだも動かせる全天候型スペース（屋根付施設）を設置。可動遊具を展開することで高齢者も利用可。 ●屋外あそびの機能充実のため、屋外交流施設（見守り、交流、ワークショップスペース、トイレなど）や倉庫を設置する。 	<p>こどもパーク内に新たに屋内あそび場（低・高年齢）を設置する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●低年齢向けのあそび場とともに、高年齢（学童期）のあそび場を一体的に確保する。 ●過去の弊社実績から、約 400 m²の屋内あそび場を屋外に新設する。 ●屋内あそび場を充実させる分、屋外あそび場に市民ニーズの高い遊具への費用が、あまり確保できない。 	<p>こどもパーク内に新たに屋内あそび場（低年齢）を設置する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ●約 120 m²の屋内あそび場を屋外に新設する。 ●ゆめトピア長船内のスペースが使用できない場合、屋外の遊具を充実させることで、低～高年齢のあそびに対応する。 ●屋根付施設に可動の遊具を出し入れしながらの運用を想定。雨天時でも幅広い年齢が遊べる場をつくる。 																														
施設規模	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋内あそび場 (ゆめトピア内に設置)</td> <td>140 m² (約 45 坪)</td> </tr> <tr> <td>屋外交流促進施設 ※1 (倉庫含)</td> <td>250 m² (約 75 坪)</td> </tr> <tr> <td>屋根付施設 ※2</td> <td>200 m²</td> </tr> <tr> <td>屋外あそび場 (屋根付施設含)</td> <td>2,450 m²</td> </tr> </tbody> </table>	施設	面積	屋内あそび場 (ゆめトピア内に設置)	140 m ² (約 45 坪)	屋外交流促進施設 ※1 (倉庫含)	250 m ² (約 75 坪)	屋根付施設 ※2	200 m ²	屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,450 m ²	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋外交流促進施設 ※3 (屋内あそび場、倉庫含)</td> <td>施設全体： 400 m² (約 125 坪) あそび場： 250 m² (約 75 坪)</td> </tr> <tr> <td>屋外倉庫</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交流スペース (ゆめトピア内を活用)</td> <td>約 100 m²</td> </tr> <tr> <td>屋根付施設 ※4</td> <td>200 m²</td> </tr> <tr> <td>屋外あそび場 (屋根付施設含)</td> <td>2,300 m²</td> </tr> </tbody> </table>	施設	面積	屋外交流促進施設 ※3 (屋内あそび場、倉庫含)	施設全体： 400 m ² (約 125 坪) あそび場： 250 m ² (約 75 坪)	屋外倉庫		交流スペース (ゆめトピア内を活用)	約 100 m ²	屋根付施設 ※4	200 m ²	屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,300 m ²	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設</th> <th>面積</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>屋外交流促進施設 ※5 (屋内あそび場、倉庫含)</td> <td>施設全体： 300 m² (約 90 坪) あそび場： 120 m² (約 35 坪)</td> </tr> <tr> <td>屋根付施設 ※6</td> <td>200 m²</td> </tr> <tr> <td>屋外あそび場 (屋根付施設含)</td> <td>2,400 m²</td> </tr> </tbody> </table>	施設	面積	屋外交流促進施設 ※5 (屋内あそび場、倉庫含)	施設全体： 300 m ² (約 90 坪) あそび場： 120 m ² (約 35 坪)	屋根付施設 ※6	200 m ²	屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,400 m ²
施設	面積																																
屋内あそび場 (ゆめトピア内に設置)	140 m ² (約 45 坪)																																
屋外交流促進施設 ※1 (倉庫含)	250 m ² (約 75 坪)																																
屋根付施設 ※2	200 m ²																																
屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,450 m ²																																
施設	面積																																
屋外交流促進施設 ※3 (屋内あそび場、倉庫含)	施設全体： 400 m ² (約 125 坪) あそび場： 250 m ² (約 75 坪)																																
屋外倉庫																																	
交流スペース (ゆめトピア内を活用)	約 100 m ²																																
屋根付施設 ※4	200 m ²																																
屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,300 m ²																																
施設	面積																																
屋外交流促進施設 ※5 (屋内あそび場、倉庫含)	施設全体： 300 m ² (約 90 坪) あそび場： 120 m ² (約 35 坪)																																
屋根付施設 ※6	200 m ²																																
屋外あそび場 (屋根付施設含)	2,400 m ²																																
備考	<p>※1 屋外交流促進施設 250 m²</p> <p>①エントランス・受付・事務機能・・・ 50 m² ②交流・ワークショップ・カフェスペース・・・ 90 m² ③おむつ替え・授乳室・トイレなど・・・ 30 m² ④休憩・絵本スペース・・・ 60 m² ⑤倉庫スペース・・・ 20 m²</p> <p>※2 屋根付施設 約 200 m² 30人/クラス × 2クラス = 計 60人使用、 かつ屋外遊戯場基準：3.3 m²/人の面積規準に基づいて算出。</p>	<p>※3 屋外交流促進施設 400 m²</p> <p>①エントランス・受付・事務機能・・・ 40 m² ②交流・ワークショップ・カフェスペース・・・ 30 m² ③おむつ替え・授乳室・トイレなど・・・ 30 m² ④屋内あそびスペース（低～高年齢）・・・ 250 m² ⑤倉庫スペース・・・ 50 m²</p> <p>※4 屋根付施設 約 200 m² 30人/クラス × 2クラス = 計 60人使用、 かつ屋外遊戯場基準：3.3 m²/人の面積規準に基づいて算出。</p>	<p>※5 屋外交流促進施設 300 m²</p> <p>①エントランス・受付・事務機能・・・ 50 m² ②交流・ワークショップ・カフェスペース・・・ 80 m² ③おむつ替え・授乳室・トイレなど・・・ 30 m² ④屋内あそびスペース（未就園児中心）・・・ 120 m² ⑤倉庫スペース・・・ 20 m²</p> <p>※6 屋根付施設 約 200 m² 30人/クラス × 2クラス = 計 60人使用、 かつ屋外遊戯場基準：3.3 m²/人の面積規準に基づいて算出。</p>																														

比較検討結果

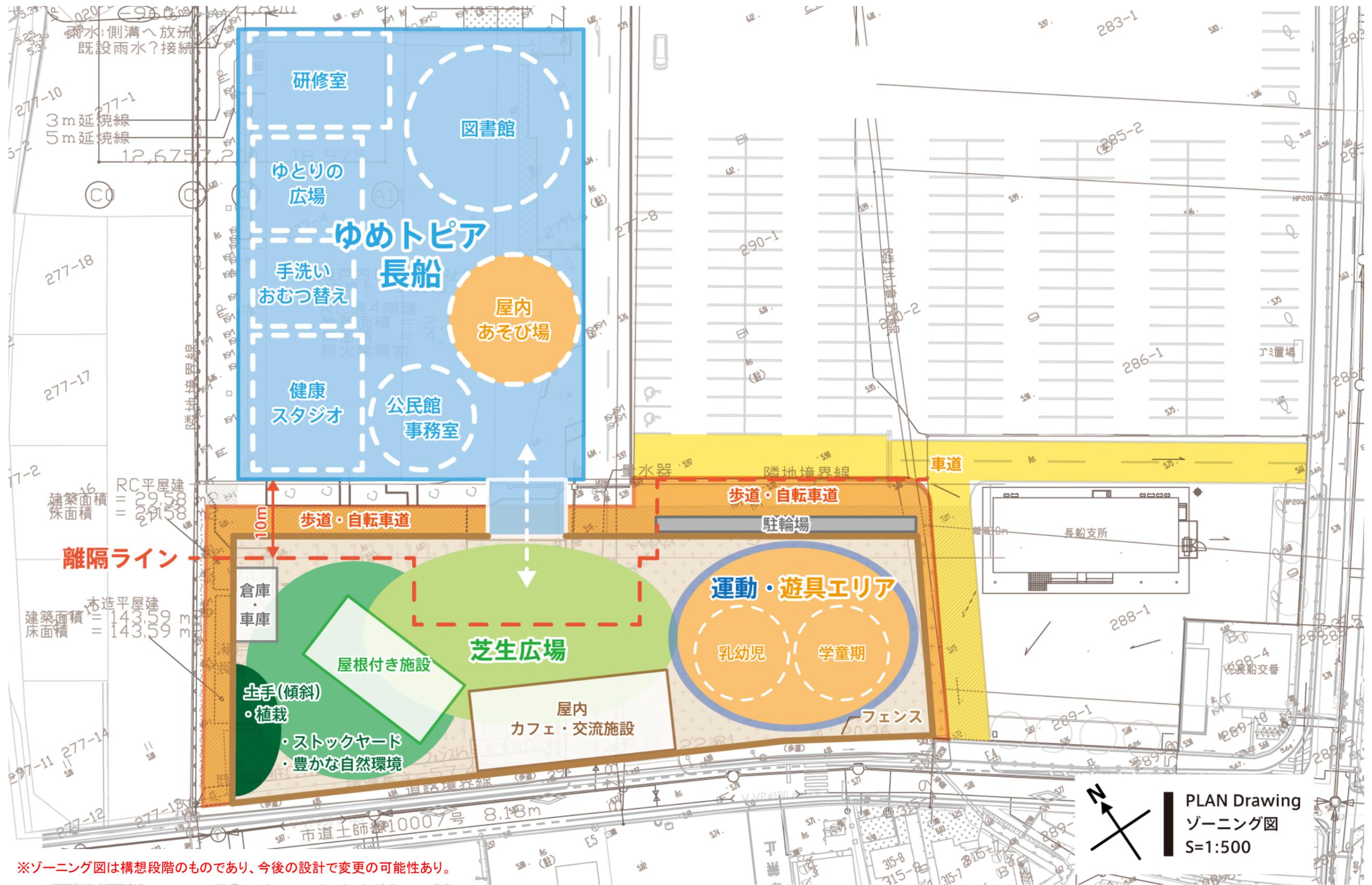
- ・全体の機能バランスが取れている。
- ・ゆめトピア長船内にも屋内あそび場があることで、多世代交流が促進されやすい。



→ **A 案を基本に検討を進めることとする。**

6. ゾーニング

前項で比較検討した各施設の位置や規模を踏まえ、ゾーニングを整理する。

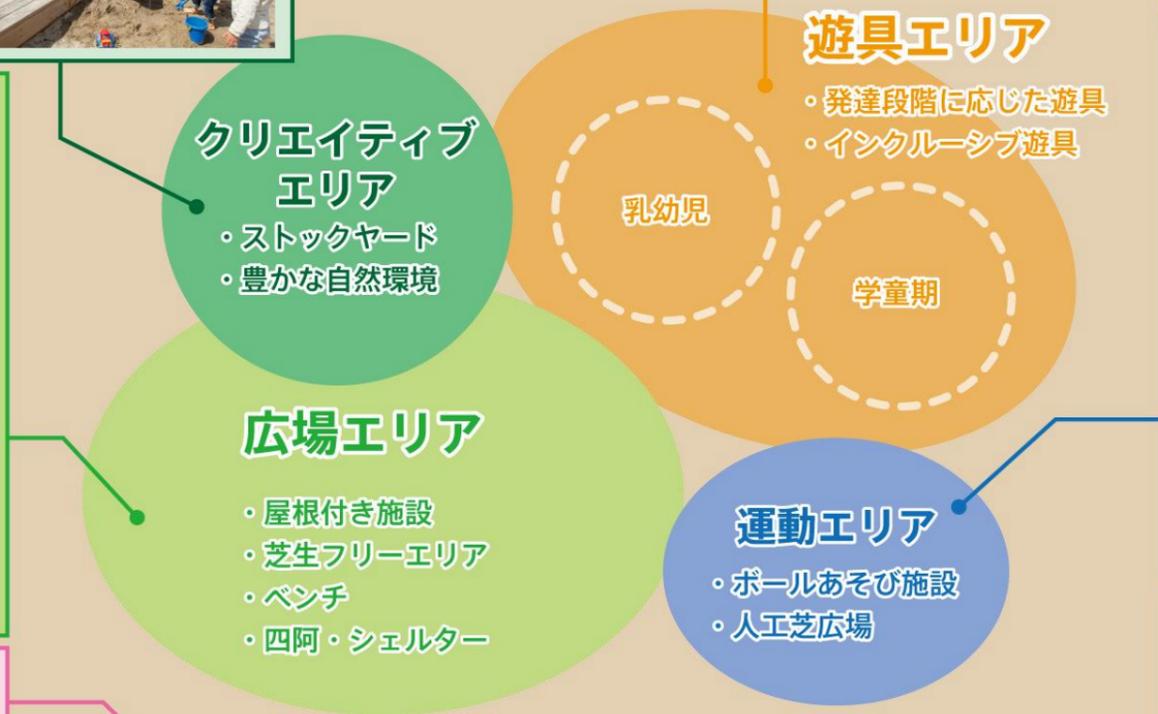


※ゾーニング図は構想段階のものであり、今後の設計で変更の可能性あり。

7. ゾーニングイメージ

各ゾーンにおけるイメージを下記に整理する。

※写真はイメージを示したものであり、今後の設計で変更の可能性あり。



8. 基本構想図の検討

前項で整理したゾーニングを踏まえ、屋内・屋外の基本構想図を整理する。

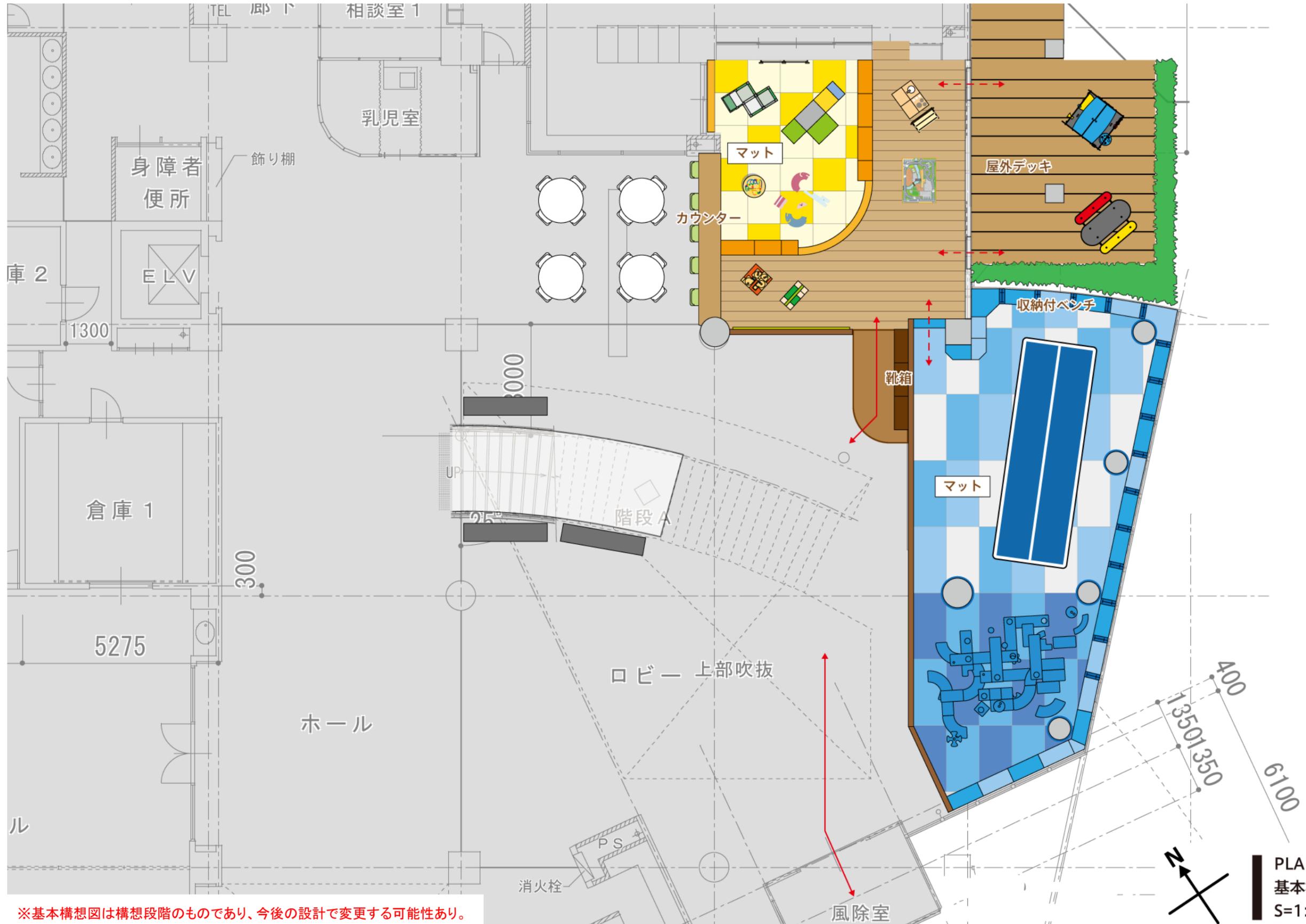
1) 屋外あそび場



※基本構想図は構想段階のものであり、今後の設計で変更の可能性あり。

※こどもパークの全天候型に対応した屋根付施設は、大規模災害時に市の物資拠点施設として活用することも想定される。

2) 屋内あそび場



※基本構想図は構想段階のものであり、今後の設計で変更する可能性あり。

9. イメージパース

1) 屋外あそび場 遊具エリア



※イメージパースは構想段階のものであり、今後の設計で変更の可能性あり。

2) 屋外あそび場 芝生エリア・屋根付施設



※イメージパースは構想段階のものであり、今後の設計で変更の可能性あり。

3) 屋内あそび場



※イメージパースは構想段階のものであり、今後の設計で変更の可能性あり。